

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 北薩地域振興局 農政普及課

課題名① 魅力ある果樹産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	4	1		・品質向上のための適正な課題である。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	4	1		・さらに調査対象を拡大して課題解決に努めてほしい。	
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	4	1		・開発総合センター等と連携しており良かった。	
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	4	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	3		・生産者全員が集って現地検討を強化してほしい。	
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	5	0		・今後も調査・研究を続けてほしい。	・引き続き次年度の普及計画に位置づけるとともに, 各種研修会等を通じて成果の普及に取り組む。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	2			

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局 農政普及課

課題名① 魅力ある果樹産地の育成						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	3			・A品率の向上は地域にとって重要な課題。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	3				
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	3			・他の仮説も立てられるように情報収集をお願いしたい。	・引き続き関係機関・団体と連携した取組を進めていく。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	1	2			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	1		・被害軽減対策となる方法があったのは良かった。	
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	2	1			
活動の 波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	2		・改善課題の一つとして今後も検討して欲しい。	・引き続き次年度の普及計画に位置づけるとともに、各種研修会等を通じて成果の普及に取り組む。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	1	2			



きんかん産地の育成

1 ブランド産地の育成(JA部会等主体活動)

- ・ 栽培講習会の実施
- ・ 品評会の実施(樹園地、果実)
- ・ 缺入れ式の開催
- ・ 出荷協議会、出荷反省会の開催
- ・ 生産履歴、農業保管簿の記帳指導
- ・ 販売ルートの多様化(海外輸出:市主体)
- ・ GFTグループへの活動支援(事務局:市)

2 収量・品質の向上(園振協主体活動)

- ・ 1番花着果率向上対策
- ・ 年内出荷率向上対策
- ・ 大玉果(3L果以上)生産対策
- ・ 単収の向上対策
- ・ 障害果改善対策
- ・ 栽培暦の作成(海外輸出対策)

3

果樹部門の普及指導計画の構成

1 きんかん産地の育成

- (1) ブランド産地の活性化
- (2) 収量・品質の向上

2 新たなぶどう産地の育成

- (1) 新規栽培者への支援
- (2) 栽培技術の向上



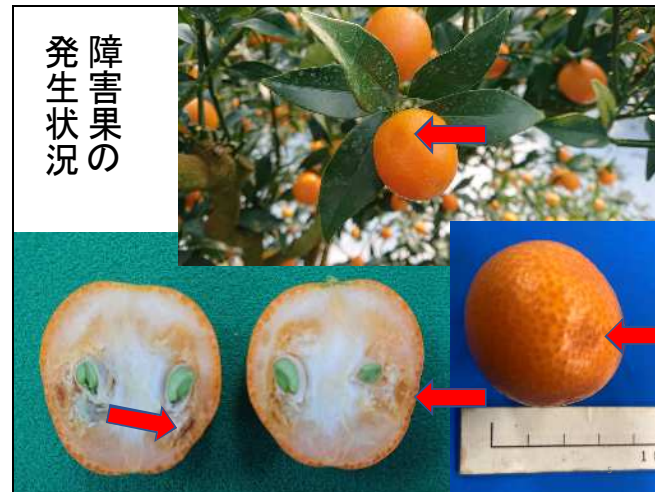
障害果改善対策に 取り組んだ経緯

令和3～4年産きんかんで複数のほ場でカ
メムシの吸汁被害に似た障害果の発生があ
り、被害の大きいところでは出荷量が大幅
に減少した。

南薩地域振興局管内でも発生があり、過去
にも同様の被害が見られたが、原因を究明
することができていない。

そこで、農業開発総合センターや南薩振興
局とも連携し、調査研究を実施した。

4



原因の推測と調査項目の選定

開花期間中に灰色カビ病発生を懸念して、必要以上にかん水を控えたことにより、ホウ素等の成分が吸収できず、障害果が発生したと仮定

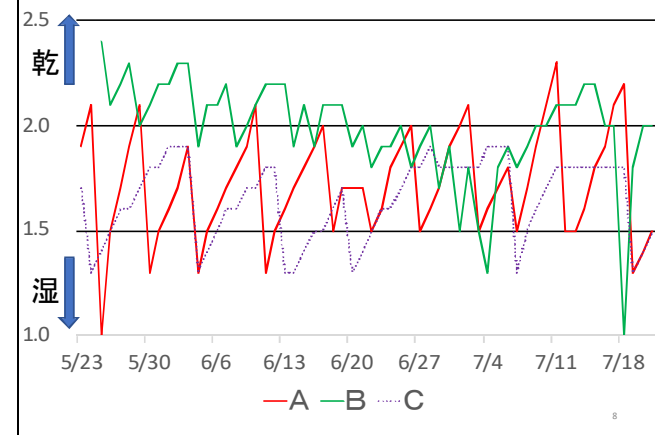
1	葉色調査	葉緑素計で各区20枚を1ヶ月ごとに測定
2	着果量調査	8月18日に各区20枝の枝長、着果数を調査
3	温度調査	温度をデータロガーで記録 A, C農家: 6/20~12/14 B農家: 5/8~10/22
4	土壌水分調査	土壌水分をテンションメータで測定 A, C農家: 5/23~12/4 B農家: 5/25~12/4
5	土壌化学性調査	共済組合土壌分析データ活用(収穫前採取) ホウ素は開発センターで分析(5/11, 12/8採取)
6	葉分析調査	開発センターで分析(5/11, 12/8採取)
7	果実(果皮)分析調査	生科研で分析(8/21, 1/5採取)
8	土壌物理性調査	生科研の貫入式土壌硬度計で測定(5/22調査)
9	障害果発生調査	ほ場巡回時に随時調査

調査ほの設置

調査樹の概要

ほ場名	区分	調査した樹の発生状況
A	発生樹	R3, R4年連続して多発生した園で特に発生が多かった樹 R4年の出荷量は半減以上
	少発生樹	上記発生A園の中で、比較的発生の少なかった樹
B	発生樹	R3, R4年の発生が多く、収穫量が半減した園の樹
C	未発生樹	過去発生したことの無い園の樹

開花期の土壌水分の推移(PF値)



きんかん土壌分析結果（ホウ素：ppm）

採取時期	A		B	C
	発生樹	少発生樹	発生樹	未発生樹
開花期	0.74	0.58	0.50	0.30
収穫期	1.05	0.86	0.80	0.64

分析：農業開発総合センター
適正範囲：0.8～2.0

きんかん葉分析結果（ホウ素：ppm）

採取時期	A		B	C
	発生樹	少発生樹	発生樹	未発生樹
開花期	35.0	34.6	31.6	19.6
収穫期	105.0	104.0	112.0	52.6

分析：農業開発総合センター
適正範囲：30～100

9

活動のまとめ

令和5年、6年の発生は問題にならなかった

原因をホウ素欠乏症に絞って調査したが、土壌、葉、果皮いずれの分析値も裏付けるデータはなかった

発生を軽減するために、特に開花期間中のかん水をするように指導（対処療法的対策）したことが有効だと思われた（栽培暦の改善）

原因究明に至らなかったが、実証農家からは発生がなかったことからねぎらいの言葉

活動を展開する上で、農家との信頼関係構築が重要であることを再認識

11

きんかん園における土壌硬度調査

園主名	区分	土壌水分 (%)	1500KPa を超えた 土壌の深 さ (cm)	2500KPa を超えた 土壌の深 さ (cm)
A	発生樹	34.5	18.3	30.3
	少発生樹	28.9	13.0	17.3
B	発生樹	27.0	12.0	60.0
C	未発生樹	31.7	33.0	46.3

調査日：5月22日

調査方法：貫入式土壌硬度計で測定

調査機関：生科研

参考：1500KPa以上で根の伸長が妨げられる
2500KPa以上になると根はほとんど入らない

10

さいごに

今後も、きんかん生産者の所得向上と産地の維持発展に、関係機関・団体と連携して努めてまいります。



12